

国際環境 NGO FoE Japan 2010 年度活動報告



ご挨拶

2010 年度は、名古屋で生物多様性条約の締約国会議が開催され、「生物多様性」のキーワードが特にクローズアップされた一年でした。FoE Japan は、フェアウッドカフェやパームプランテーションキャンペーンなどを通じて消費者に向けた啓発活動に力を入れ、ODA 改革についての政策提言活動などでも一定の成果を得ることができました。また、FoE Japan 設立 30 周年の節目にあたり、記念事業を行い、これまでの活動のあゆみを振り返るとともに、次の一歩にむけて決意を新たにいたしました。

今年3月の東日本大震災、原発事故を受け、FoE Japan の活動も新たな側面を持ちつつあります。これまでの活動を基盤に、今回の事態に対して、環境 NGO として何ができるか、何をすべきか、を考え、市民の視点に立った政策提言、支援活動を行っていきます。世界中の人々が日本の動向に注目している今こそ、市民の声を結集して社会を変えていかなくてはなりません。本年も引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

気候変動・エネルギー

2010年は、京都議定書以降の国際枠組み交渉が、2011年の南アフリカ会合での合意を目標に再スタートしました。国内の温室効果ガスを削減するための新たなしくみづくりは政局の混迷を受け、法案が審議されないままになりましたが、FoE Japanは、先進国・日本が、期待される大幅削減行動に今すぐ舵を切るよう、政府や自治体・地域への働きかけ、市民に向けた啓発活動を行いました。

● 国際交渉

12月にメキシコで開催された国連気候変動枠組み条約第16回締約国会議(COP16)では、議長国メキシコの調整努力により、次期枠組み合意の土台となる「カンクン合意」が採択され、当初期待されていた以上の成果が出ました。一方で、破壊的な気候変動影響を防ぐための重要な要素は含まれず課題として積み残されました。

FoE Japanは、FoE インターナショナルをはじめとするNGOの国際ネットワークと情報共有、協働しながら、交渉文書の分析や評価を行い、より強固な次期枠組み合意を求めて日本政府や各国政府にロビー活動を実施しました。特に、日本政府の京都議定書を拒否する姿勢は、交渉の妨害行為とも見られ、気候変動影響を受ける国々から厳しい非難を受けました。このような日本政府の方針を改め、国際社会に貢献するよう日本の気候NGOと連携しながら働きかけを行いました。

● MAKE the RULE キャンペーン

日本の国内政策では、2009年の政権交代の後、2020年に25%削減の目標と国内排出量取引制度、地球温暖化対策税、再生可能エネルギーの全量買取制度などの導入を掲げた「地球温暖化対策基本法案」が閣議決定され、2010年の通常国会で審議が開始されました。

FoE Japanは、MAKE the RULE キャンペーンとともに、25%削減目標が新たな国際枠組み合意まで発効されないことなど、法案の不十分な内容の見直しを求めて、国会議員にハガキを送るアクションやロビーイングを行いました。しかし、首相の退陣の影響で法案は廃案となり、その後再上程されたものの審議されないままです。キャンペーンでは、国会議員およびメディア、市民に向けたセミナーやイベントを開催し、前進しない温暖化政策への危機感を訴えました。

● 自治体・地域に向けた温暖化政策提案

FoE Japanは従来から、公立学校において児童・生徒や教職員が協力して省エネ活動を行い、節減できた光熱水費の一定割合を自治体から学校にご褒美として還元するしくみ(フィフティ・フィフティ)の普及活動を行ってきました。2009～10年にかけて、このしくみの全国での普及状況について、自治体へのアンケートとヒアリング調査を行い、報告書にまとめました。

報告書では、これまでに同制度を導入した44自治体の様々な実施状況を体系的に整理し、自治体の温暖化対策、また環境教育として効果的に実施するためのマニュアルとして活用できるようにしました。11月にセミナーを開催、これを報告し、今後の各地での温暖化対策の中での活用を提案しました。

● 日独共催「気候俳句」コンテスト

8月から9月にかけて、FoE ドイツ(BUND)と共同で、「気候俳句コンテスト」を開催しました。俳句という文化を育んだ四季折々の気候が地球温暖化の影響で危機に瀕している状況を詠んだ作品が、日独合計で約300句集まりました。

その中から選んだ優秀作品を、カードにしてウェブサイトで発表、10月に環境大臣とNGOの意見交換会の際に、温暖化対策への一層の取り組みを願って大臣にお渡ししました。



気候俳句カード

● 市民に向けた啓発活動



2009年に英国で制作され国連気候サミットに合わせて世界で上映された映画「THE AGE OF STUPID」の上映会とトークライブ「愚かな時代にしないために」を開催。今行動しなければ何が起こるのか、これからのエネルギーと社会のあり方はどうあるべきかを科学者や市民とともに話し合いました。

トークライブ「愚かな時代にしないために」で江守正多さん（国立環境研究所）、飯田哲也さん（環境エネルギー政策研究所）らとともに

成果

- ★ 公正な次期枠組みづくりのための国連交渉における日本政府及び各国政府に対する働きかけ
- ★ 地球温暖化対策基本法案の見直しと早期審議に向けた国会への働きかけ
- ★ フィフティ・フィフティの全国実施状況調査と自治体向けアドバイスツールの完成
- ★ 温暖化問題の危機を警告しエネルギーシフトを呼びかけるイベント開催

2011年度の活動計画

● 気候変動政策提言活動

- ・ 南アフリカ・ダーバン会合における強固な次期枠組み合意を目指し、国際交渉に参加して日本政府や各国政府に働きかけを行う。
- ・ 地球温暖化対策基本法案の可決及び温室効果ガスの25%削減目標を確実な約束とするよう働きかける。
- ・ 自治体の温暖化政策の策定のため、市民による政策提言活動を促進する。

● カーボンオフセット調査

- ・ 日本政府が温室効果ガス削減目標達成手段として推進する二国間クレジット、CDM、REDD等の途上国における日本のカーボンオフセット事業をモニタリングし、問題点や課題を調査する。
- ・ 調査結果は、映像としてまとめ公開セミナーにて企業や市民に報告する。

● 原発・自然エネルギー・省エネ政策提言、啓発活動

- ・ 原発事故による被害の最小化の政策措置及び脱原発・エネルギーシフトの政策の具体化を求めて、国会議員向けに連続セミナーを開催する。
- ・ 脱原発・エネルギーシフトを目指して、被災地を始め国内外の市民団体をネットワーク化し、市民運動を拡大・強化する。
- ・ 竹キャンドル節電イベント等市民参加型のキャンペーンを実施する。

開発金融と環境

外務省主導による政府開発援助(ODA)の改革に対する政策提言、また日本が第二の出資国となっている世界銀行の民間支援部門、国際金融公社(IFC)の環境ガイドラインの改訂に関する政策提言を中心に行いました。インドネシアで実施している、住民主体の気候変動対策事業では、パイロット事業を、周辺の村にも普及させるなどしました。

● ODA 改革への提言活動

2009 年度後半から開始した ODA の見直しは、2010 年 6 月に最終とりまとめが外務省から公表されました。FoE Japan は 2009 年度後半より、この機会を通じて、ODA の大規模インフラから人間の安全保障分野へのシフトや、独立評価局の設置などの必要性を主張してきましたが、これらの主張のうち、評価の独立性やその強化など、重要な提言の一部の趣旨が最終とりまとめに反映され、ODA の質の向上に貢献しました。一方、人間の安全保障分野へのシフト等、実質的には今回の見直しに反映されなかった部分もあり、今後の課題も残っています。

● 開発事業のモニタリング

フィリピンのボホール灌漑事業を中心に、マレーシア・パハン・スランゴール導水事業、フィリピン・サンロケ多目的事業等について、国際協力機構(JICA)、国際協力銀行(JBIC)、日本政府、企業、国会議員等への様々な働きかけを通じ、事業の問題の改善を目指し活動しました。

日本の ODA が三度にもわたって拠出されているボホール灌漑事業では、実施機関である JICA に対し改善策を提示、ODA 改革の議論にも教訓を反映させることができました。



「ダム建設後、13 年経っても未完成の水路。この先の農地に灌漑用水は届かない。」と嘆く農民代表（フィリピン・ボホール灌漑事業）

● 気候変動資金に関する活動

2009 年のコペンハーゲン会合において、途上国の気候変動対策のための新規で追加的な気候資金が必要であると提案され、日本も「鳩山イニシアティブ」という独自の途上国支援を打ち出しました。

FoE Japan は、この新たな資金の流れに伴って新設・増加される気候変動対策制度や事業が、現地のニーズに沿った効果的な対策となっているか、また環境や社会に負の影響を与えていないか等調査し、国際機関及び二国間援助において適切な気候変動対策支援を実施していくよう、国連会合等で働きかけました。

● インドネシアの気候変動対策事業



エコツアーでマングローブ植林を体験しました。

上記の途上国への気候変動対策支援の代替案を提案するため、FoE Japan は住民主体の気候変動対策事業として、アグロフォレストリーによる流域保全活動とマングローブ再生による沿岸保全活動を実施しました。

流域保全活動では、昨年までにパイロット地域で築き上げた住民主体の保全モデルの周辺村 9 村への普及活動を実施しました。

マングローブ再生においては、地方政策の一環としてマングローブ作業部会を設置し、さらなる保全活動への展開を目指しました。コミュニティレベルでは、自立発展を目指し、エコツーリズムの導入を始めました。

● 講演・セミナー・出版

一橋大学や JICA から依頼を受けた研修を中心に、様々な講演を行うとともに、ODA 改革に関するセミナーや世界ダム委員会(WCD)の 10 周年に関連するセミナーを開催しました。また日本による途上国への気候変動対策支援に関する課題と提言をまとめた、「気候ファイナンス～新しい資金の流れは、途上国を救えるか～」を出版しました。

成果	<ul style="list-style-type: none">★ ODA 改革を通じて、ODA の評価制度に改善が見られた。また、過去の ODA 案件のレビューを外務省が再度実施することになった。★ JICA がボホール灌漑事業の効果発現を目的とした調査を実施、現地会合も開催された。★ 気候変動対策事業において、地方政府の政策に流域保全や沿岸保全が位置づけられた。
-----------	--

2011 年度の活動計画

● 日本の公的資金が支援する海外の原発

- ・ 原発輸出に対する公的資金の支援の状況把握と政策提言
- ・ 日本が支援を予定しているマレーシアの原発に反対する市民社会とのネットワークとキャパシティビルディングのための、ワークショップ開催(マレーシア)。

● 個別事業の環境・社会問題の改善のための活動

フィリピンを中心に、個別事業のモニタリングを継続し、現場における環境・社会問題の具体的な改善を目指す。そのための調査および調査を基にした情報発信と提言活動を行う。

● インドネシアの気候変動対策(適応)事業

代替生計手段の導入等を含め、事業の自立化を進める。また、地方政策において住民主体の気候変動対策を主流化するモデルを、他地域・他国に普及させるための情報共有を実施する。

● イベント・シンポジウム・出版など

- ・ 個別事業に関するセミナーの開催
- ・ 一橋大学等の大学や JICA から委託される講義
- ・ インドネシアエコツアーの実施



現地会合で比政府機関・JICA に問題を訴える農民
(フィリピン・ボホール灌漑事業)

森林と生物多様性保全

2010年度は、企業など外部との連携を強化し、多種多様なイベントやキャンペーンを通して「産地のみえる木材」を身近に感じる機会の創出に努めました。

● パームプランテーションキャンペーン

熱帯林減少の大要因であるオイルパームなど大規模プランテーションの拡大を抑制すべく、パーム油を使用しない石鹸素地の製品販売をはじめた企業ラッシュ・ジャパンと協働し、プランテーション開発を取り巻く問題を広く一般に伝え、消費量削減や環境に配慮したパーム油の使用を呼びかけました。国内 NGO とのネットワークも再構築され、今後の活動展開の体制が整備されました。

● 木材生産国調査

近年の米国や欧州における違法材の取引規制強化のなか、日本のへ輸入される木材の合法性確保も課題となっています。木材生産国である中・露およびベトナム・ラオスにて、合法木材調達へ資する遡及可能性調査を実施しました。

● フェアウッドパートナーズ

森を壊さない木材の選び方や使い方＝フェアウッドを定着させるため、企業との様々な協働事業や消費者向けの普及活動に取り組みました。FW 推進セミナーを東京と大阪で開催。フェアウッドカフェでは「木のある暮らし講座」を毎月開催、野外イベントへも出店しました。加えて、インドネシア・ジャワ島のコミュニティ材、および宮城県諸塚村の里山広葉樹材の製品開発支援を行いました。

● 森のプレゼント

森のプレゼントでは、埼玉県飯能市の山林整備（駿河台大学と連携）によって得られた間伐材などで 17 台のベンチキットを作成、10 箇所を組み立てワークショップを行い、子どもたち、その家族と共に日本の森林の現状について学びました。また、新たに埼玉県ときがわ町の柵平集落で間伐作業を行い、関西方面では、三重県尾鷲の間伐材で作るベンチの試作品が完成しました。

● アムールトラねっと

アムールトラねっとは、国内の動物園との連携を強化、イベントキットを作成して各園に配布しました。また動物園ボランティアさんが主体となってイベントを実施できるように研修会を開催。既に動物園主体での普及・啓発イベントが始まっています。その他、講演会においてアムールトラ生息地保護の現状を伝えました。

● 里山再生プロジェクト



森のほいくえん「うつぎっこ」、葉っぱでお面づくり



エコプロダクツ展。スギ間伐材を利用した立体感のあるブースで、エコブース大賞を受賞しました。

宇津木の森(東京・八王子)では、作業計画づくり、初心者への技術指導やレポート発信まで、参加メンバーが中心になって活動を進めました。作業の段取りがよくなり活動回数・参加者が増えたことで、きれいに手入れされた里山になりました。森のほいくえん「うつぎっこ」、石窯パーティー、講演会などイベントも定期的で開催しました。1月には埼玉県・小川町をフィールドに、「里山ぐるぐるスマイル農園」もスタートしました。

● タイガの森フォーラム

ビキン川流域の貴重な森林生態系に寄与する手法、世界遺産登録実現に向け、セミナー、写真展などにより(CBD-COP10 サイドイベント、エコプロ 2010 等)、広く一般に紹介しました。

成果

- ★ 展示業界最大手の乃村工藝社のフェアウッド調達方針策定、およびエコプロダクツ展における共同出展&第1回エコプロブース大賞受賞
- ★ 森のプレゼントでは、17台のベンチ寄贈、200名以上が参加。2箇所の間伐施業を実施。
- ★ 全国のアムールトラ飼育動物園イベントキット配布（15園）。講演会3回実施。

2011年度の活動計画

● パームプランテーションキャンペーン

ネットワークを強化し、消費者団体やパーム使用企業へとプランテーション問題を伝え、働きかける。現地ではNGOと協力して、住民たちの土地防衛対策支援を実施する。

● 諸塚広葉樹活用プロジェクト

宮崎県諸塚村と、木材加工工場、住宅建築、インテリアショップ、家具メーカー、ギフト商品販売、アパレル、飲食店、薪ストーブとの多業種協働で、里山広葉樹材のフル活用を目指す。

● 使って守るジャワ島の森林・農業生態系プロジェクト

インドネシアのジャワ島のコミュニティ林業地域において、森林・農業生態系の保全に配慮した木材利用を実現する管理・運営体制を、現地住民、NGOと共同で整備する。

● 森のプレゼント

日本の森の力による被災地復興支援として、子ども達を笑顔にする「木のおもちゃ」、「木造住宅、復興拠点」によるコミュニティ支援、生活再建の支援を行う。

2011年秋には、飯能市、ときがわ町で合計25台のベンチを作成し、関東周辺に寄贈します。また、尾鷲のベンチ、合計12台を大阪を中心に寄贈していく。

● アムールトラねっと

野生アムールトラの保護戦略の情報を動物園へ配布するなど、より詳細な生息地情報の普及に努め、アムールトラ生息地保護の輪を広げる。

● 里山再生プロジェクト

里山ぐるぐるスマイル農園では、身近な里山の資源を活用した農作物の有機栽培を実体験で学びながら、荒れた里山林を整備、収穫物を街の施設にプレゼントする。

宇津木の森でも、森の手入れを継続しながら、薪の利用やキノコ栽培、落ち葉腐葉土づくり、竹を利用したキャンドルなど、里山材の活かし方を提案していく。

● タイガの森フォーラム

2011年10月完成に向けて映画撮影を実施。また、新たに把握できたニーズに基づき、現地支援活動の継続的な建直しを図っていく。

砂漠緑化

中国・内モンゴルで始めた緑化活動は、10年目という節目の年を迎えました。これまで緑化隊をはじめ、多くの方に応援いただき、村から村へ活動を広げることができました。緑を取り戻すことと同時に、回復した緑をどう利用し、どう維持するかという課題にも力を入れました。

● 活動地での緑化活動

新規2ヶ所(ダチンノール村3期地区、ブツィルモ村)を含む10の活動地で、囲い柵の設置、植樹、草方格づくりなどの緑化活動を、住民が主体となって行いました。近年は、家畜の放牧制限や、木を植えれば個人の権利になるなどの土地政策が浸透し、緑化活動を後押ししています。植樹後に雨が多く降ったこともあり、緑の再生に向けて各活動地で成果の見られた1年でした。前年に、囲い柵の管理が悪く家畜の食害にあった村がありましたが、その反省から再挑戦をして、植樹後の

手入れまで行き届くようになりました。

緑化 10 年目のダチンノール村1期地区では、大きく育った木が分配され、住民それぞれが管理するようになりました。幹を太くしようと枝打ちをして燃料に使ったり、伐採してさっそく家を建てる木材に使ったという住民もいました。伐採しても繰り返し育て、緑を維持することが新たなテーマになりました。そこで、この地域で木を上手に育てている住民の取り組みをビデオに収め、他の活動地の村で紹介しました。



10 年前に植えた苗木は立派な林に

● 家庭農牧場支援

砂漠を緑化再生し農牧地に活用する家庭規模の緑化「家庭農牧場」の普及をめざし、募金による支援を行いました。前年にいただいた募金で 19 戸を支援し、各家庭が緑化に取り組みました。

● 緑化ツアー・情報発信



緑化ツアーの実施、ホームページ等での情報発信を行い、活動への参加を呼びかけ、多くの方に協力をいただきました。また、活動 10 周年を記念して「緑化隊大同窓会」を開催、隊を越えて親睦を深めることができました。

支えてくれた緑化隊のみなさんに感謝

成果

- ★ 活動地が 2 ヶ所増え累計 14 ヶ所に、家庭支援は 19 戸増え累計 104 戸に
- ★ 活動地と家庭支援を合わせた総支援面積が 2,662 ha に（参考：豊島区は 1,300ha）
- ★ ツアーを 2 回実施し、延べ 26 人が参加。累計 25 回 364 名に

2011 年度の活動計画

これまででは毎年活動地を増やしてきましたが、次のような現地の状況変化に対応し、今後は新規に広げず、各活動地で緑の利用と維持のバランスを確立することをめざして活動を行います。

● 現地のおもな状況変化：

- 中国政府による砂漠化防止・緑の回復への奨励策が現地まで浸透してきたこと
- 地元自治体の砂漠化問題への認識が高まり、行政指導も見られるようになったこと
- 地域の経済も伸張し、住民に木を植える機運が広がってきたこと

● 緑化活動の継続

ダチンノール村、ブッティルモ村ほか継続活動地で、植樹や草方格づくりなどの緑化活動を実施。併せて、木の育成方法や緑化手法の知恵・実践例を集めて住民間で共有する「ビデオ行脚」、村での苗畑づくりなどを行い、緑を大切にすることを大きく育てたい。

● 家庭農牧場支援

家庭農牧場は新たに 18 戸の支援を開始。家庭単位の緑化支援は継続、次年度支援の募金を呼びかける。

● 情報発信

ツアー、報告会の開催、ホームページなどで活動状況、緑化の経過を発信。砂漠緑化活動を通して緑の大切さを伝え、自然を壊さない暮らしを呼びかける。

廃棄物・3R

2010年は、容器包装リサイクル法の次の改正に向け、リデュース、リユースの2Rの推進を優先するしくみづくりとライフスタイルの見直しを提案する新たな活動を開始しました。また、アジア各国における3R推進に関して国際会議への参加や調査活動を行いました。

● 容器包装リサイクル法の改正に向けた提言活動

2013年に予定されている容器包装リサイクル法の見直しを前に、容器包装の3Rを進める全国ネットワークでは、公開学習会を開催しながら、改正市民案づくりを行いました。そして、前回の改正で不十分だった拡大生産者責任の徹底とリデュース、リユースを促進する具体的なしくみを盛り込むことを求め、10月から国会に向けた請願署名活動を開始しました。また、2R推進を啓発するアニメを制作し、イベントを開催しました。

● アジア3R推進市民フォーラム

2009年に東京で開催されたアジア3R推進市民フォーラムを基盤に、6月、継続的に活動する国内NGOのネットワーク「アジア3R推進市民ネットワーク」が設立されました。FoE Japanは、この市民ネットワークに参加するとともに、10月にマレーシアで開催された「アジア3R推進フォーラム第2回会合」およびサイドイベントの市民フォーラムに参加、同国における3Rの推進状況と市民活動について調査を行いました。

● 水Do! キャンペーン

ペットボトルなどの容器入り飲料ではなく、水道水を選ぶことで、ごみ、CO2、そして社会的コストを削減することを呼びかける「水Do! (スイ・ドウ) キャンペーン」を6月に開始しました。キャンペーンは、1) 自治体の率先行動を応援し広げる(会議で容器入り飲料を提供しない、公共施設に自販機を設置しないなど)、2) 街のオアシスを発掘する、増やす(水飲み場、カフェ等の給水スポット)、3) 容器入り飲料に頼らないライフスタイルの提案(イベント、情報発信)の3つの柱を中心に、幅広くボランティアに参加いただきながら展開しています。メディアにも多く紹介され、自治体の水道局との協働も始まりました。



水Do! キャンペーン・キックオフ記者会見

● パネル展「しくみをつくれればごみはへる！」



10月から11月にかけて1ヵ月半、丸の内さえずり館にて、脱・使い捨て社会に向けたパネル展を開催しました。国内外の脱・使い捨ての取り組みなどを紹介し、持続可能な2R社会を提案する展示やセミナーは多くの共感を呼びました。パネルの一部は、12月のエコプロダクツ展でも展示、来場者にしくみづくりに向けたアンケート調査も行いました。

ペットボトルの増加状況をリアルなグラフで表現

● 脱・使い捨て NEWS Online

従来のA4版配信の「脱・使い捨て NEWS」をメールマガジン形式でも配信し、活動の進捗やニュースをよりタイムリーに発信するようにしました。

成果

- ★ 容器包装リサイクル法次期改正に向けた提言活動の本格開始
- ★ 水Do! キャンペーンへの賛同の広がり
- ★ 脱・使い捨て社会に向けた提案の展示ツールの完成アジアにおける3Rの国際会議への参加

2011年度の活動計画

● 容器包装の2Rを推進する提言活動

容器包装リサイクル法の改正の早期実現を求めて国会議員、省庁に働きかけを強化。各国の法制度の最新動向調査やセミナー開催など通じて、改正提案を行う。

● 水 Do! キャンペーン

昨年度に築いた関係者とのつながりを強化しながら、より幅広い人々の参加によるキャンペーンの全国展開をめざす。また、今年度は特に、水飲み場の見直しに焦点をあて、国内外の魅力的な水のみ場の発掘や自治体、事業者への提案活動を行う。

● 自販機へらそうキャンペーン

東日本大震災を契機に、一時的な電力不足回避ではなく、中長期的な低エネルギー社会に向け、ライフスタイルそのものを転換する象徴的な存在として、飲料自販機の大幅削減を呼びかけるキャンペーンを開始。自治体、事業者への働きかけ、地域活動のネットワーク化をはかる。

● アジア3R推進市民フォーラム

各国の3R推進市民団体との情報共有を進め、協働の取り組みの可能性を探る。

サステナブルなまち・くにづくり

ドイツツアー開催と環境首都コンテストの運営への参加を中心に活動しました。



フライブルクのBUNDのオフィスで

● 環境先進国ドイツに学ぶプロジェクト

ツアー開始から9年目となった2010年は、早くから「環境首都」として知られるフライブルクと首都ベルリンを訪問する「ハイライトツアー」を開催し、9名が参加しました。

● 日本の環境首都コンテスト

自治体の持続可能なまちづくりのための施策を評価するコンテストは、2010年度に10年目を迎え、ついに水俣市が「環境首都」の条件をすべてクリアし、その称号に輝きました。FoE Japanは、関東地区のボランティアコーディネートをを行ったほか、11月に水俣市で開催された全国フォーラムに参加、「水の地産域消と容器入り飲料削減の自治体宣言」を提案し、多くの自治体の賛同を得ました。

成果

- ★ ドイツツアー開催による日独環境市民交流の実現。
- ★ 環境首都コンテスト運営ネットワーク参加による自治体や他NGOとのパートナーシップ強化

2011年度の活動計画

● ドイツツアー

自治体職員や議員の参加できる日程で新たなツアーを企画予定。

● 環境自治体パートナーシップ

環境首都コンテストの運営団体、参加自治体を中心とした継続的なネットワークへの参加による「地域からの持続可能な国づくり」に向けた協働を目指す。

事務局

FoE Japan の活動はサポーターや寄付者のみなさまからの支援によって成り立っています。また、より多くの方から支持をいただいで活動することで、社会を動かす力も大きくすることができます。支援・支持の拡大を目指し、2010 年度は以下のような活動を行いました。



展示会「30STEPS～地球となかよく歩いていこう。」

● FoE Japan 設立30周年事業

設立から 30 周年を迎えたのを機に、これまでのご支援への感謝を込めて 30 周年事業を実施。東京・表参道で開催した展示会には、250 名もの方々にご来場いただきました。展示会中に、「新たなSTEPにむけて」と題した交流会を開催し、FoE Japan を支援してくださっている方同士のつながりを深めることができました。また、これまでの足跡、今後の活動をまとめた冊子『30STEPS～次の一步に向けて』を作成。FoE Japan の活動について広く理解・共感をいただくために活用していきます。

● 参加機会や交流の場の提供

サポーター同士の交流の場、FoE の活動への参加のきっかけとなるような場の提供を目指して、Supporter's Café や日曜ハイキングを実施しました。登山ブームの影響か、日曜ハイキングの参加者数は延べ 560 名と、昨年度の 1.5 倍に増えました。日曜ハイキングは、ボランティアのリーダーさんが実施してくださっていて、参加費は FoE への寄付になります。

● サポーター数の推移

2011 年 3 月末時点でのサポーター数は 501 名。昨年より横ばい状態ですが、サポーターを更新してくださる方の割合は増加しました。イベントがある毎にいつも参加してくださる方、ボランティアで手伝ってくださる方など、定期的に参加・協力してくださる FoE の“ファン”は確実に増えているようです。

● 個人・企業からの寄付

7 月に認定 NPO 法人の認定を取得することができました。30 周年事業の際に多くの方にご寄付をいただいたこと、もあり、いただいた寄付額は前年度より 25% 増加しました。また、支援者をどのように増やしていくか、どうやって継続的に支援してくださる FoE の“ファン”を増やしていくか、について、スタッフ全員で話し合い、外部の専門家にアドバイスをいただきながら、「支援者拡大アクションプラン」を作成しました。

成果

- ★ 認定 NPO 法人の認定を取得。
- ★ 30 周年事業を実施し、幅広い層に活動への関心をもってもらうことができた。
- ★ スタッフ全員で話し合っ「支援者拡大アクションプラン」を作成することができた。

2011 年度の活動計画

昨年度作成した「支援者拡大アクションプラン」を元に、支援者とのコミュニケーションや情報管理システムの改善をはかり、より多くの方に支援をいただける組織を目指す。

● 情報発信の強化

ソーシャルメディアを積極的に活用するなど、これまで接点のなかった方にも FoE Japan の活動が伝わるよう情報発信の方法、内容を工夫していく。情報をタイムリーに、分かりやすく伝えるよう改善し、FoE Japan からの情報発信が、一人一人のアクションにつながる事を目指す。

● 支援者の拡大

スタッフ一人一人が日々の活動において支援者拡大を少しずつ意識することで、支援者の拡大を目指す。また、Supporter's Café などのイベントを通じて、スタッフとサポーター、サポーター同士の交流促進を図り、より深く活動を理解し、参加するきっかけを提供していく。

認定 NPO 法人 FoE Japan 2010 年度活動報告書

発行日：2011 年 6 月 12 日

〒171-0014 東京都豊島区池袋 3-30-8 みらい館大明 1F

Tel: 03-6907-7217 Fax: 03-6907-7219

Web: <http://www.FoEJapan.org> Email: info@foejapan.org